

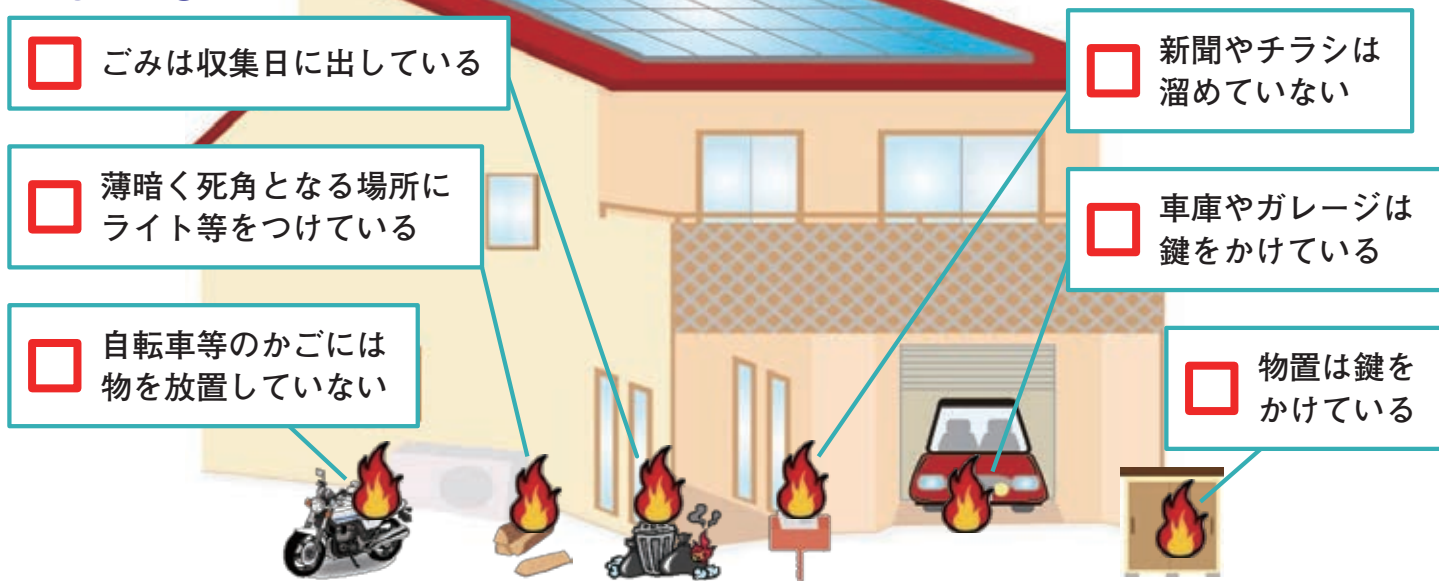
放火されない環境をつくりましょう！

ポイント1 放火防止5か条を実践する



- ◆地域ぐるみで放火防止に取り組みましょう！
- ◆家の周りには、燃えやすいものを置かないようにしましょう！
- ◆夜間、建物の周囲や駐車場は、照明を点灯して明るくしましょう！
- ◆車やバイクなどのボディカバーは、燃えにくいものを使いましょう！
- ◆車庫、物置にはカギをかけましょう！

ポイント2 放火防止対策をチェック ☒ する



地震時等の電気火災を予防できる 感震ブレーカーをつけましょう！

ケース1 家を留守にしているとき



ケース2 停電後、復電するとき



「感震ブレーカー等^(※1)」は、震度5強相当以上の揺れを感知した際^(※2)に、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。

感震ブレーカー等の設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段です。また、家電製品や電源ケーブルなどの安全を確認した後に復電できるため、安心して電気の使用を再開できます。

※1 アンペアブレーカーや漏電ブレーカーと異なります。

※2 ブレーカー遮断までの時間や作動する震度を変更できるタイプもあります。詳しくは各社ホームページをご参照ください。

感震ブレーカー等の電気遮断範囲

家中の電気を一括遮断

接続した機器のみを遮断

分電盤タイプ

「内蔵センサー」で遮断^(※3)



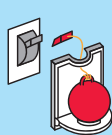
コンセントタイプ

「内蔵センサー」で遮断



簡易タイプ

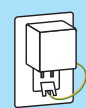
「おもり落下」で遮断



「バネ作動」で遮断



「内蔵センサー」で遮断^(※4)



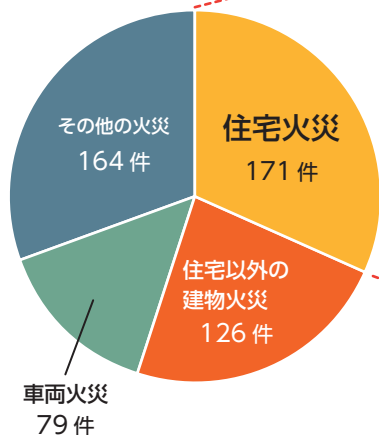
※3 主幹ブレーカーにセンサーが内蔵されている仕様。または、盤内外に設置した、センサーが内蔵された機器と主幹ブレーカーを専用電線で接続し、疑似漏電信号を送ることで主幹ブレーカーを動作させる仕様

※4 4住宅に形成されているアース回路に対して、意図的に漏電を発生させることで住宅盤の主幹ブレーカーを動作させる仕様

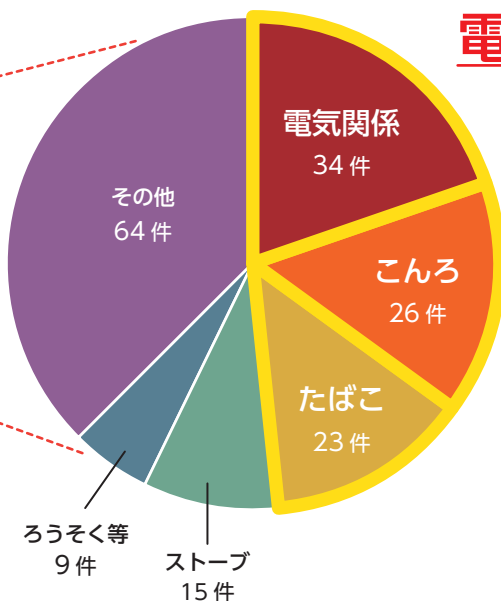
出典：内閣府チラシ

住宅火災から大切な命を守りましょう！

火災種別ごとの件数
(令和3年から令和7年)



住宅火災における
出火原因ごとの件数



住宅火災の原因は
電気・こんろ・たばこが多い！

【出火事例】

- ◆ コンセントとプラグの間にほこりが溜まり、水分を含んだほこりが電気を通し、出火した。
- ◆ 油を鍋に入れ、火をかけたままその場を離れたため、出火した。
- ◆ 消火不十分なたばこをごみ箱に捨てたため、可燃物に着火、出火した。

今すぐできる火災予防の **ポイント**

【電気火災を防ぐ】



- ◆ 使っていないプラグは抜いておく
- ◆ プラグ、コンセントは定期的に掃除する
- ◆ 電源タップは決められた容量内で使用する
- ◆ 電源コードは束ねて使用しない
- ◆ 電源コードは家具などの下敷き、折れ曲がりに注意する

【こんろ火災を防ぐ】



- ◆ 調理中にこんろから離れない
- ◆ こんろ周りに燃えやすいものを置かない
- ◆ こんろの上や奥にあるものを取るときは、火を消す
- ◆ 安全機能付きのこんろを使用する
- ◆ 防災品のエプロンやアームカバーを使用する

【たばこ火災を防ぐ】



- ◆ 寝たばこは絶対にしない
- ◆ 吸殻を捨てる時は、必ず水をかけ消火する
- ◆ 吸殻を灰皿やごみ箱に溜めない
- ◆ 飲酒→喫煙→うたた寝に注意する
- ◆ 火種を落とさないように注意する

宇都宮市消防局 予防課

☎ 625-5505 FAX 625-5509

